



祭典の様子 於:本殿



宗像

沖津宮 現地大祭 齋行

神職以外で沖ノ島への入島が年に一度許可される沖津宮現地大祭が五月二十七日に齋行され、全国より一九七名の一般参加者と、大島の氏子で構成される沖・中両宮奉賛会、同翼賛会、神職等総勢二二〇名が沖ノ島に渡島、敬虔な祈りが捧げられた。

この祭典は日本海海戦を勝利に導いた先人達を顕彰し、また国家の安泰を祈願する為、毎年五月二十七日に齋行されている。参列者は前日大島へ参集。

中津宮で午後六時よりの渡島安全祈願祭に参列し翌日の無事の渡島を祈り、各自大島に齋泊した。明朝午前七時、大島渡船「しおかぜ」をはじめ各々乗船し、出港。この日は極めて珍しく海上風いであり、午前八時半には



波止場での直会



平成ノ大造営

時満ちて
道ひらく

余滴

四月十四日と十六日に二度にわたり、最大震度七の地震が熊本地方を襲い、死者四十九人を出すなど史跡や歴史的建造物に大きな被害をもたらした。神社界では阿蘇神社の重要文化財の「楼門」と拝殿が全壊し、境内に三カ所ある神殿が損壊状態にあるという。自然災害とはいえ、歴史的建造物がこのように損壊したという事実については残念でならない▼福岡県でも十一年前の平成十七年に福岡の西方沖の玄界灘で発生した震度六弱の地震は記憶に新しい。この地震で県内の神社の灯籠や鳥居倒壊するなどの損傷を生じた。今回の熊本地震で宗像地方は大きな揺れはあったものの、幸いに人的被害や建造物への被害はなかった▼重要文化財の九割は木造建造物だと言われている。地震や台風などの自然災害を受ける可能性が大きい▼地震大国であるわが国では震災の発生を予測することは難しい。常日頃から地震に対する危機管理の対応をしっかりと認識し、先人たちの精神活動の証である文化財を保護する意味でも、災害への備えが不可欠であることを誰もが再認識する必要がある。被災地の一日も早い復興をお祈り致します。(杉)



中津宮 渡島安全祈願祭



受付の様子 於：中津宮

全ての船が沖ノ島に到着、直ちに海中で禊し、沖津宮本殿へ参進した。
午前九時三十分、沖津宮本殿にて祭典斎行。葦津権宮司が祝詞を奏上し、各代表が順次祈念を込めて玉申を捧げた。祭典終了後には本殿周辺の祭祀遺跡説明も行われた。

その後、波止場では沖中両宮奉賛会、同翼賛会 奉仕による直会が行われ、参列者は準備された刺身、煮魚等に舌鼓を打ちながら神の島での一時を過ごした。正午、各々の船に乗り込み出港。沖ノ島を一周して離島、午後一時過ぎには全ての船が大島に到着し、それぞれの帰路に着いた。

一方で、渡島出来ない女性らは大島にある「沖津宮遙拝所」での祭典に参列し、遙かに祈りを捧げた。

前年度の事業・決算報告、本年度の事業計画・予算案を始め、氏子会々費取り纏めの依頼についてそれぞれ審議頂き全て承認された。
次に役員改選の議案では、去る三月の評議員会に於いて選

去る五月二十五日、午前十一時より宗像大社氏子会総代総会が置鮎玄二郎会長以下九十五名出席の下、清明殿にて開催された。
本殿にて正式参拝の後、清明殿へ移動し国歌斉唱、神宮並びに皇居遥拝、敬神生活の綱領を唱和し、会長、葦津宮司の挨拶の後、議事に入った。



出された新役員案が審議された。本改選は会長一名、副会長四名、監事四名の三役九名を決定するものであり任期は三年と定められている。各地区より選出された新役員が原案通り承認された。(新役員は下記記載)

第1回 平成二十八年年度 氏子会総代総会開催

最後に本年度より総代・評議員に新たに就任頂いた方々へ委嘱状贈呈式が行われ、該当者を代表して田島地区多礼より選出の田中健治評議員に置鮎会長より委嘱状が手渡され、総会は終了した。

また長年に亘り、監事をお努め頂きました城野寅夫氏、小島正弘氏、白石春美氏に篤く御礼申し上げますと共に新任・留任の総代・評議員の皆様には今後の大社の諸行事や祭典等の御協力をお願い申し上げます。

平成28年度宗像大社氏子会三役

〔会長〕 置鮎玄二郎
〔副会長〕 瀧口 幸男

〔監事〕 松井 善徳
沖西 敏明
山本 清
瀧口 和彦
安部 賢
花田 和樹
八尋 隆道

宗像の女子中学生が 沖ノ島を題材に絵本を制作

五月二十三日、宗像市の中学生が沖ノ島を題材にして制作した絵本が完成し、制作に参加した中学生と出版社、福岡教育大学等の関係者が参拝し、絵本の奉納式が行われた。奉納された絵本「みあ

れ祭の日に」は、宗像の子ども達の「そうぞう力」(想像力・創造力・宗像力)育成と郷土の魅力を発信することを目的に、宗像市が実施した事業「宗像歴史未来塾」絵本づくりプロジェクト」で、

宗像市の中学生二十一名が制作。中学生達は、絵本制作にあたり、昨年十一月から宗像の歴史や文化を学ぶため、辺津宮や中津宮、神宝館などを視察し、福岡

教育大学美術教育講座の協力のもと、絵本作家や編集者、漫画家などプロのクリエイターからも指導を受け、約半年をかけて物語と原画を完成させた。題材は沖ノ島や島で繁殖するオオミズナギドリ、みあれ祭で、作者名はみんなで考えた「宗像未来ガールズ」となっている。

から宗像の歴史や文化を学ぶため、辺津宮や中津宮、神宝館などを視察し、福岡

絵本は、宗像市役所や海の道むなかた館内の売店、全国の書店やインターネット等で販売中。



絵本奉納



宮司による神道講話



出版社「(株)アリエスブックス」
A4判・1,400円(税別)



神主より説明を受ける中学生 於：中津宮

夏越祭・大祓神事

ご案内

恒例の夏越祭が近付いて参りました。このお祭りは、夏季に流行する悪疫を除去し、皆様方の心身の罪・穢を人形に託して祓い除き、清々しい気持ちで、毎日が無事に過ごしていただくための神事でございます。皆様お誘い合わせの上、御参列下さいますよう御案内申し上げます。



七月三十一日(日)
午後五時

大祓神事引き続き 夏越祭

第21回

出光興産株式会社
中堅社員研修所感
人事部教育課

去る五月十六日から十九日までの四日間、宗像大社において、出光興

産株式会社中堅社員研修を実施させていただきました。本研修は、今後を

担う中堅社員を対象に、「日常の慣性から離れて自分の生き方を見つめ直すこと」、

集合した研修生は、まず、拝殿にて研修開始を奉告しました。その後、葦津宮司から、「宗像の歴史と未来」という題目

で、神道の起源から、日本や皇族の歴史、宗像の由緒に至るまで、幅広くかつ意義深いご

講話をいただきました。そして、静寂の中で行う鎮魂で自分自

身を見つめ直し、禊練成で新たな自分に生まれ変わるきっかけを掴みました。また、大島に渡島し、沖津宮を遙拝した際には、最近では年に数日しか見られないという沖ノ島まではつきり見ることができました。このよ



高宮清掃奉仕

うな機会に恵まれた研修生は、宗像大神様に見守られているような気がしました。そのほか、神宝館などの諸施設の見学、神職との班別討

議等を通して、神道や宗像大社についてさらに理解を深め、研修最後の夜には、出光佐三店主の大好物であった鶏すきを神職と研修生がともに囲みました。



神職との討議



禊練成

「合宿生活で実体験を通じて出光の原点を感じ取ること」を目的に毎年

開催しており、今回は、国内各事務所のほか、海外事務所や関係会社から合計二十八名が参加しました。

この度の研修では、葦津宮司をはじめ、関係者の皆様に多大なるご協力をいただき、研修を滞りなく修了することが

できました。本研修での体験や沖津宮遙拝所から見た沖ノ島は、研修生にとつてたいへん貴重なものとなりました。研修生からは、「宗像大社という荘厳かつ神聖な場所での研修は、自分自身を見つめ直す良い機会になった。」「研修を通じて、神道、日本人として大切にすべきこと等に触れることができた。」という感想が寄せられ、本研修の目的は、十分達成されたものと思えます。

最後になりましたが、本研修にご協力いただいた葦津宮司をはじめ、関係者の皆様にご心よりお礼申し上げますとともに、皆様の益々のご繁栄をお祈り申し上げ、研修の所感とさせていただきます。



研修終了 出発式



玉串拝礼作法

六月十一日、柳川市の日吉神社にて福岡県氏子青年協議会定例総会が開催された。この会は、県内五社の氏子青年会で組織され、毎年当番会持ち回りで行われている。

当日、午後三時より日吉神社社会館にて、同協議会田中茂廣会長(日吉神

社)以下会員二十一名、又来賓として日吉神社山口祥子宮司、福岡県神道青年会外山貴寛会長、当社葦津幹之権宮司出席のもと盛大に総会が開催された。総会終了後、同神社を正式参拝、会場を移し懇親会が開かれ、各会員との交流を深めた。



平成28年

福岡県氏子青年協議会 定例総会 開催

平成28年度

宗像大社 氏子青年会定例総会

六月二日、宗像大社氏子青年会定例総会が田村会長以下三十名出席のもと清明殿にて開催された。

神宮並びに皇居遙拝、国歌斉唱、全国氏子青年協議会綱領唱和を行い田村会長、葦津権宮司より挨拶を頂戴した。議事は進藤会員を議長に審議に

入り、平成二十七年年度活動報告並びに決算報告、監査報告が審議され、承認を得ると、引き続き平成二十八年度氏子青年会活動計画案並びに予算案についても一同より承認を得た。最後に全会員で聖寿の万歳を行い、総会は滞り無く終了した。



職員マナー講習開催 参拝者への対応を見つめ直す

五月二十三日、巫女職を中心とした職員のマナー講習が行われた。

この講習は、社頭での参拝者、来客者への対応の充実のために企画され、『ささ原マナーカレッジ』主宰 友清順子氏を講師としてお迎えし、開催された。

今回はマナーの基礎的な研修であり、先ず、決まったマナーはあくまでも規準であり、相手によって異なる事、誰かを思いやる行動であり、誰かのこうして欲しいを感じて動く事、即ち人としての行いが出来る人であると、マナーに付いて話があった。その後、表情、所作(姿勢)、歩き方の実践的な講習が行われ、巫女た



ちは苦戦の様子ながらも多くの事を吸収しようとする真剣に取り組んでいた。

終了後の感想文では、多くの巫女が自己のマナーについての改善が感じられ、頼もしく感じると共に、今後の社頭対応の充実に期待したい。

宗像大社 マナー講習 講師紹介

友清 順子



ささ原マナーカレッジ主宰
企業研修、一般マナー研修
講師歴23年
飲食店経営 日本ソムリエ協会
公認ソムリエ

●(株)日本航空旧エアシステム
客室乗務員82期

●VIPフライト経験
V I P フ ラ イ ト 経 験

●インターナショナル
イ ン タ ー ナ シ ョ ナ ル

●アカデミー(航空専門学校)
専任講師

●ホテルクリオコート博多
チーフコンシェルジュ兼

●人事課採用教育担当チーフ
神湊リゾートホテル

●ユー倶楽部 副支配人

●フレンチレストラン
シェ・ささ原 開店

モットー「現場から」

机上の論理や理想論ではなく30年の接客経験から体得した生きた体験をお伝えすることににより分かり易く、身に付く研修を行う。

第1回 東京宗像会 開催

去る五月二十一日(土)

國學院大學研究開発センターの協力により、同大学の五号館の五三〇一教室にて、一回目の東京宗像会が開催され、総勢九十一名が参加した。この会は、平成二十九年に世界遺産への登録を目指すこの宗像を東京の地から応援していく会として設立され、今回が初会合となりました。

十一時より、葦津宮司が「宗像の歴史と未来」と題して講演を行い、日本神話をはじめ、皇室の歴史、宗像の地の歴史を参加者に分かり易く紹介しました。

講演後、都内の大学のなかでおいしいと評判高い学食にて昼食をとり、國學院大學の博物館を見学して、散会となりました。



マナー講習 巫女レポート

今まで、自分なりに良いと思って、参拝者への対応をこころがけてきたつもりでしたが、今回のマナー研修を受け、改めて自分のマナー、サービスを見直すきっかけとなりました。

マナーとは礼儀作法や決まりごとだと思っていましたが誰かの為の行動であると初めて知り、確かにそつだなど納得できるものでした。

私たちはほとんどの場合、高校を卒業して奉職しております。ですから、基本的な接客用語などは学びますが、具体的な参拝者への対応(接客)をしていくのは、現場に出て行動し、判断して自ら学んでいくこととなります。感性で行動出来るという人もなかにはいると思うが、経験や失敗を重ねて分かることが多いと思う。これまでの経験や今回のマナー講習をいかして、参拝に来ていただいた方が、気持ちよくお参りしていただけるような対応、接客を意識し、後輩の手下となれるような巫女、社会人になっていきたいと思ひます。

巫女は、完全なサービス業ではないと思ひし、客ではなく参拝者なので一般のサービスとは違うと思ひます。神社に仕事で来られる来客の方と参拝者ともやはり違うと思うので誰にどのような接客・対応をするのかどこまでのサービスをしようのか、巫女という様々なイメージ・品格を求められている参拝者にとって非日常的な空間にいる特別な存在である巫女という立場でどのようにあつていくかは、私たちにとって大きな課題であると思ひます。

そのような課題があつても、今回の研修のなかでもあつたように、まずはどの参拝者に対しても、笑顔で接することを心がけ、状況に応じて笑顔を使い分けること、笑顔といふことは必ず忘れることなく日々奉仕していきたいと思ひます。

笑顔で接し、参拝者の方たちに「また来たいな」「なんか、いいな」と思ひていただけるよう頑張つていきたいと思ひます。

御造営奉賛者御芳名

(平成28年5月) (順不同・敬称略)

伊賀市	長谷川恵子	北九州市	福島
伊賀市	黒田 関男	神戸市	和田 弥生
伊賀市	長谷川恵子	太宰府市	椎木 信幸
伊賀市	長谷川兼喜	広島市	小谷和弘・初江
伊賀市	黒田 大介	福岡市	柴原あゆみ
伊賀市	黒田健太郎	福岡市	橋本麻依子
伊賀市	長谷川佳代	福岡市	嘉村 健志
伊賀市	川村 吉一	港区	岩本 陽子
伊賀市	西村ちひろ	大牟田市	加藤 純
伊賀市	北林 常美	神崎市	小林 正明
伊賀市	福島 義治	福岡市	井崎 安德
伊賀市	森 智也	福岡市	石田 哲平
伊賀市	森 裕章	大分市	大羽田 光
伊賀市	松岡林太郎	大分市	矢羽田 光
杉並区	山崎 昌樹	熊本市	木村 光里
八王子市	石井 博之	小松市	田井 孝一
文京区	武田 保江	世田谷区	高橋 悠女
宗像市	寺原 神助	世田谷区	木村 朱里
糸島市	國分浩一・美	台東区	柏原 明子
伊賀市	内田 直美	所沢市	鈴木ますみ
伊賀市	深井 宗子	鳥取市	山田 一孝
伊賀市	辻本摩李子	福岡市	加藤 徹郎
伊賀市	黒田美代子	福岡市	中村 隆輔
茨木市	占部 博	福岡市	白木亮子・トミ子
茨木市	占部 博	福岡市	井上 芳徳
大阪府	松本 律子	福岡市	柴田 勝久
大阪府	松本 鐘太	福岡市	津守 拓也
大田区	岡野富佐子	飯塚市	牧野 淳
桶川市	鈴木 敏行	横浜市	内海 敬太
加古郡	藤原 良治		
糟屋郡	因間 久倫		
糟屋郡	吹田 勝弥		
田島	三〇〇〇円	田島	山口 三春

宗像大社氏子会

第六五九回

宗像大社歌会詠草

大西晶子選 毎月25日メット



宗像市 宮田 山本 静子

送り来し四国さぬきゆ靴あゆみ履き心地よし朝の芝の上
靴を贈られた嬉しさ。上の句に送り主を入れ、例えば
「讃岐の子が送りにてくれし運動靴…」などとしても。

宗像市 日の里 秋吉 嘉範

掘りたての筍届く梅干と霊場守る友傘寿
友への厚い思い。贈物は筍だけにし三句は「篠栗で」
結句は「傘寿の友より」としたい。

北九州市 八幡西区 豊田 光子

人生の終末施設ケアに来て散歩を楽しむ姫辛夷咲く
静かな日々の喜びの歌。「晩年を過ごす」と来たるケア
ハウスの散歩で見たり姫辛夷の花」。

福津市 若木台 山崎 公俊

「高宮」に案内を乞はれうれしかりこんどの新人気立てがいいぞ
大社で研修中の若者に会った作者か。新人に出光、ト
ヨタ等の具体があると良い。

宗像市 多禮 早川 祥三

福島の足跡消えてゆく渚消せない影はフクシマのまま
福島の放射能汚染はフクシマとして記憶に残るだろう。
二・三句を「渚の足跡消えゆけり」とすると分かり易い。

北九州市 門司区 北野カズミ

真白なる八重の芍薬ほころびてふくよかになり気高き満つる
純白の芍薬が美しい。語順を変え「ほころびてふくよ
かなれる八重咲きの芍薬真白気高きまで」とした。

宗像市 池田 森 龍子

街路樹の躑躅は低く箱型に剪られて夕日は側面に映ゆ
理知的な見方が活きている。躑躅の植え込みの描写
が正確。四句「剪られ夕陽が」。

福津市 中央 池浦千鶴子

つれだちて淡墨桜観むと来ぬ亡き母に似し媪もをりて
母と淡墨桜を見たかった作者だろう。三・四句「似
る媪も共に」とすると印象が優しくなる。

宗像市 自由ヶ丘 萩原 勉

ホークスのさよなら勝ちを聞きながら畑仕事の疲れ忘れる
作者はホークスファン。疲れを肩凝り、腰痛等とす
るとリアリティが増すだろう。

宮若市 水原 吉崎美沙子

藤の木に藤咲くごとく藤の花まといし杉は大空に立つ
美しい景。初句「四句をへみづからの花のごと咲く藤
蔓をまといて杉は」としては。

宮若市 宮田 本田エリナ

夕方の買物帰り道の奥心震わす初ホトトギス
心待ちにしていた初杜鵑。詞書から三句以下「宮の杜
でこの年の初ホトトギス聴く」と句またがりにして
みた。

宗像市 田久 巻 桔梗

これはうんビールもどきだと言はれつつ本物んぐんと飲みほされたり
来客にビールを発泡酒と間違われた作か。四句はサ
ントリー・モルツなど商品名を

◆ 選者詠

雨の日を軒下にゐし女郎蜘蛛梅雨明けの空にかがやく巢張る
里帰りせし子が去りて赤き柄のビニール傘が傘立てに立つ

第六三二回

俳句 作品集

宗像市 多禮 早川 祥三
島の香をミカンの花の蜜に秘め

7月 祭事暦

1・15日 月次祭

午前10時～ 高宮祭、第二宮・第三宮祭
宗像護国神社祭(1日)
午前11時～ 総社祭
浦安舞奉奏(1日)
豊栄舞奉奏(15日)

29日 第61回 中津宮七夕揮毫会

午前9時～ 於=大島・中津宮

31日 夏越の大祓神事

午後5時～ 大祓式 於=神門前
引き続き 夏越祭 於=本殿

編集後記

毎月、社報「宗像」をこ

愛読いただきありがとうございます。さて今月号より、編集者が鈴木から黒神へと代わりました。これからも皆様によりわかりやすく、宗像大社の事を伝えていけるような誌面づくりをしてまいりたいと思います。▼私は、月に5回ほど当直で神社に泊まることがあるので、その夜間の巡回中に境内でポツポツと蛍の光が見え始めています。この季節ならではのことで、また境内には紫陽花なども咲き始め季節を感じる次第でございます。神社に参拝することによって四季を感じることができる、これも神社の参拝する楽しみになるのではないのでしょうか。(黒)

発行所

宗像大社社務所・宗像会

住所 所 千八一一三五〇五

福岡県宗像市田島三三三二

電話 〇九四〇六二一一三二(代)

発行人 葦津幹之

編集人 大塚・鈴木・黒神
制作・印刷ゼネラルアサヒ